

グラフでみる きょうたんの予算

ご覧いただく際の参考にしてください。

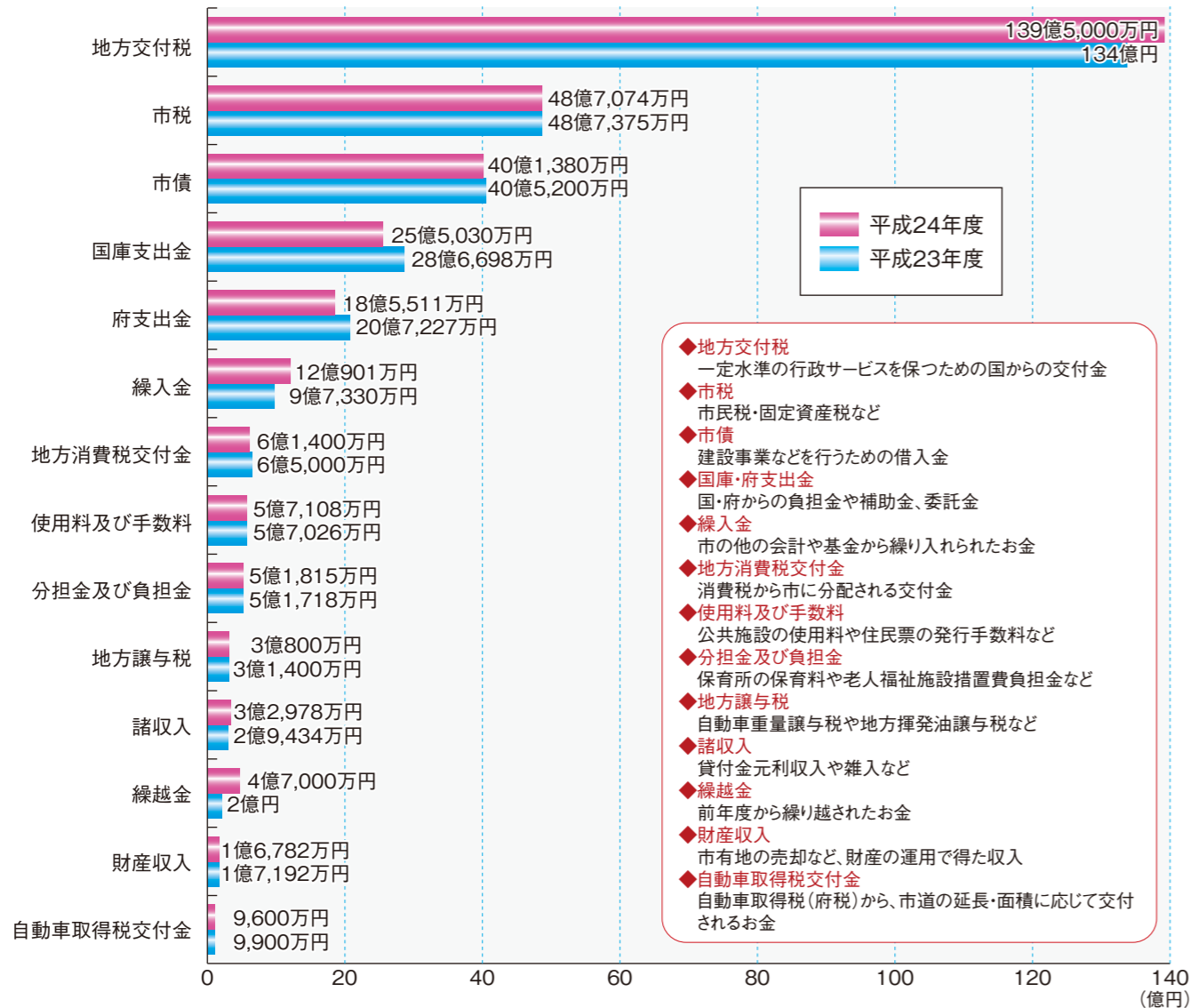
参考

- 市の予算は、『年度』という期間を使っています。
平成23年度とは、平成23年4月1日から平成24年3月31日までをいいます。
平成24年度とは、平成24年4月1日から平成25年3月31日までをいいます。
- 京丹後市の人口 6万70人
(平成24年3月31日現在の住民基本台帳による数値です)
市の借金や貯金の、市民1人あたりの金額を計算する基礎に使用しました。
※本年度の掲載数値は、当初予算が市長選挙に伴う骨格予算であったため、すべて6月補正予算を加算した肉付け後の数値を用いています。

平成24年度の収入の内訳

市の収入で一番金額の多いものは、国から配分される地方交付税の139億5,000万円で、次いで市税の48億7,074万円、市債（借金のことで、地方債とも呼ばれます）40億1,380万円の順となっています。

主な収入比較



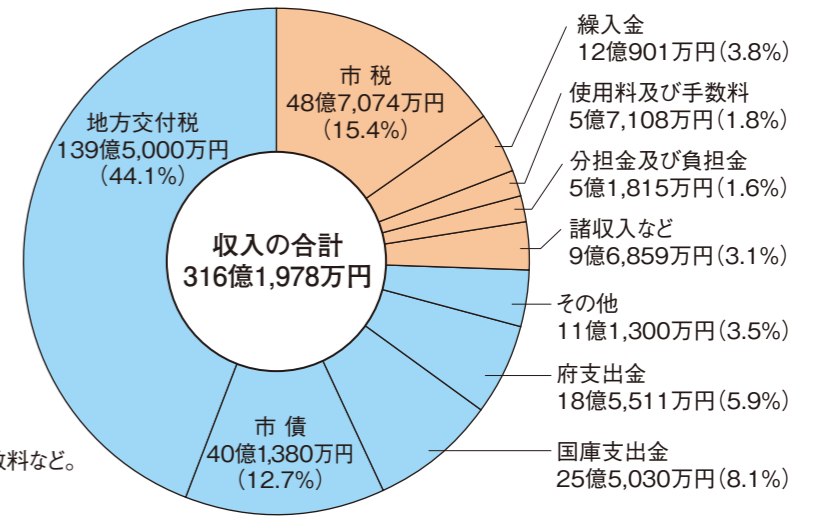
財政基盤を安定させ、市民のニーズに応じた自主性のある行政サービスを提供するためには、一般的に自主財源の割合が高いほど望ましいと考えられています。

市の収入総額316億1,978万円に占める割合は、自主財源が81億3,757万円で25.7%、依存財源が234億8,221万円で74.3%となっています。国や府からもらえるお金や借金に頼った収入構造といえます。

収入の構造

自主財源 25.7%

依存財源 74.3%



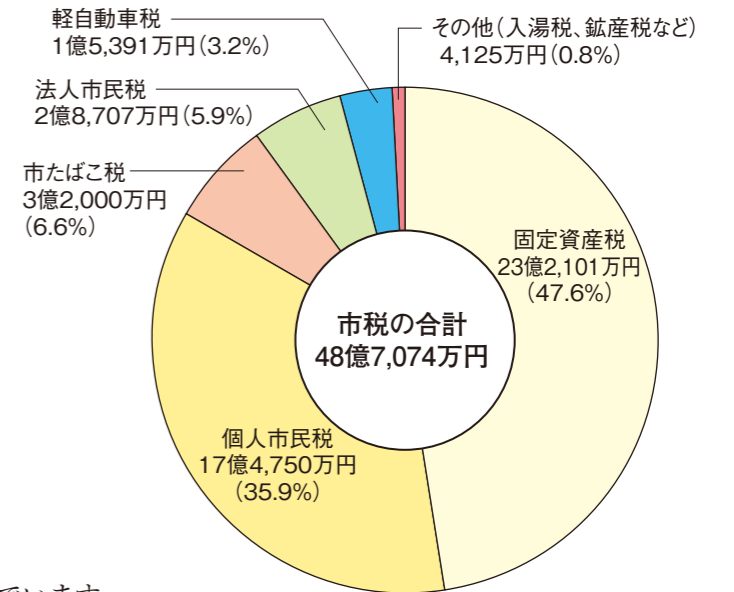
- 自主財源…市が自ら徴収することができるお金。市税や施設の使用料、各種手続きの手数料など。
- 依存財源…国や府から交付されるお金や借金のこと。地方交付税や補助金、市債など。

市税の状況

〈市税の内訳〉

京丹後市の市税は、市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、入湯税などがあります。

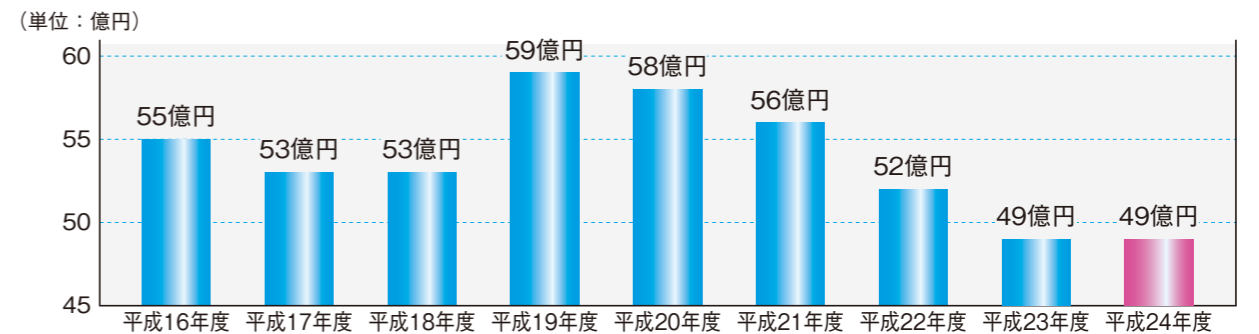
市税の内訳をみると、固定資産税が23億2,101万円で市税の約5割近くを占めており、次いで個人市民税が17億4,750万円、市たばこ税が3億2,000万円となっています。



〈市税の推移〉

平成24年度は前年度と同程度の税収を見込んでいます。

平成19年度の税源移譲で所得税(国税)が減少し個人市民税(地方税)が増加したことにより、一時的に市税収入は伸びましたが、年々減少傾向にあります。平成24年度は、個人市民税の年少扶養控除の廃止に伴い、個人市民税の増収を見込んでいますが、たばこ税や固定資産税は減収となる見込みです。



(注) 平成22年度以前は決算額、平成23年度および平成24年度は予算計上額です。